

# 心豊かな世代が育つ

## 童話の里づくり

444

ーシリーズー あなたの人権・わたしの人権

『心を支える人になりたい』

八幡小学校 6年

重見 麗夢

私の祖父は、腰から下がまひして、ほとんど動けません。

リハビリをしているので、少し動くくらいは自分でもできます。でも、父や祖母がついていないと、ほとんど何もできません。

私が小さい頃、お世話を少ししたことがあります。その時は失敗ばかりでした。

今は、父の仕事も忙しくなり、祖父を施設に預け、時々帰ってきた時に私もお世話をしています。

障がいがある人は、誰かの手助けが必ず必要であると、小さい頃から感じていました。

そして、昨年、学校で視覚障がいの廣田さんにお話を聞くことができました。

事前に視覚障がい体験をした時、私は「少しこわいけど、誰かの助けがあると安心するな。」と感じました。

実際、廣田さんにお会いして、「こわいことがありますか。」と、たずねた時に、「楽しいことの方が多いです。」と答えてくださいました。

廣田さんは、学校までは車で送ってもらったけど、私たちがいつも歩くろうかや階段を一人で歩いたり、昇ったりしていて、とてもおどろきました。

今年の夏、「世界の人々へのお手紙」という本を読みました。

この中で一番心に残った言葉は、「遠く離れている人が、私を気にかけてくれてる。神様もちゃんと見て下さっている。」という言葉です。

この言葉から登場人物のレーナさんが夢に向かって努力を続けるために、自分を奮い立たせている力強さ

を感じました。

障がいを乗り越えるために、辛いことや悲しいことがあっても、この言葉で自分自身を上げましていると思いました。

そして、廣田さんから学んだことを思い出しました。

レーナさんも「大変なことがあっても楽しいこともたくさんある。」「障がいをもっている人だからこそ、他の人とはちがう世界が広がる。」と言っています。

また、レーナさんは、不安な時、自分の夢や両親や介護アシスタントさんに支えられたことを思い出し、自分の夢をかなえていきました。

作者は、レーナさんのように希望が持てれば、障がいを乗り越えられると伝えたかったのだと思います。

障がいがあるからできないと決めつけず、やろうと思えば、したいことや夢をかなえることができる、私もそう思います。

この本から周りの人が思いやりをもって接することの大切さも感じました。

レーナさんも周りの人の心の支えがあったからこそ、辛いことを乗り越えられたと思います。

私も周りに困っている人がいたら、

助けたいです。そうすれば、その人が希望を持ってがんばれると思うからです。

私もこれから成長していくにつれ、いろいろな人に出会おうと思います。

その中には、障がいがある人もいることでしょう。そんな時には、その人に声をかけたり、手伝ったりしていきたいと思います。

そして、私もその人の心を支える一人になりたいです。

(学年は作文を書かれた時のものです。)

この人権作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。また、みなさんの投稿もお待ちしております。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別性について気づいたことや感じたことを、二〇〇字程度にまとめて、住所、氏名、連絡先電話番号を記入して(匿名可)、玖珠町教育委員会社会教育課「あなたの人権・わたしの人権」までお届けください。

